

Lecture 授業No.101 教科書P.159～

T.Q.「各国の反仏ナショナリズムとは
どのようなものか？」

向出 研司：石川県立寺井高等学校
地歴公民科教諭

直前予習 T. A. キーワード確認

教科書 P.160

T.Q. 「各国の反仏ナショナリズムとはどのようなものか？」

1. 民族意識
2. スペイン
3. プロイセン
4. ロシア
5. ライプツィヒ(ライプチヒ)
6. ワーテルロー

クリックで全て



今日の授業ラインナップ。

1. 英への上陸作戦は失敗
2. ナポレオンのヨーロッパ大陸支配
3. ロシア遠征失敗→ナポレオンの没落

(5) 英への上陸作戦

...1805. 10月、**トラファルガー海戦**で**ネルソン**に敗北 [※1](#)

(6) ヨーロッパ大陸支配

1805. 12月 **アウステルリッツの三帝会戦**に大勝

仏・オーストリア・ロシア [※2](#)

1806 **ライン同盟結成** **神聖ローマ帝国消滅** (962~)

→ **大陸封鎖令**...ヨーロッパ諸国は英との通商禁止

1807 **ロシアとプロイセンに大勝**

→ **ティルジット条約**

1 ウェストファリア王国とワルシャワ大公国成立

∴プロイセン領は半減 ポーランドの一部復活

2 ロシアも英との通商禁止

⑦ ナポレオンの没落 ∴各国の反仏ナショナリズムの高まり

(1) **プロイセン国政改革** (宰相**シュタイン**と**ハルデンベルク**)

1/2枚目のスライドはここまで！

T.Q.「各国の反仏ナショナリズムとは？」 教科書P.159~

⑦ ナポレオンの没落 ∵ 各国の反仏ナショナリズムが高まる

(1) プロイセン国政改革 (宰相シュタインとハルデンベルク)

————— ここから

(2) スペイン抵抗運動 (ゲリラ戦術) ※5

(3) ロシア遠征大失敗 (1812) ← ロシアが英に小麦を密輸

cf. 焦土戦術 ※6①②

(4) 諸国民戦争 (ライプツィヒの戦い) に大敗 (1813)

→ 1814、パリ占領。ナポレオンはエルバ島に流刑

but { 王政復古 (ルイ18世) は不人気
ウィーン会議はまとまらず

∴ 1815. 3月、復位

T.Q. 「各国の反仏ナショナリズムとは？」

教科書P.159～

(5) ワーテルローの戦い (6月) に大敗

... 対仏大同盟軍 (英将軍ウェリントン) に敗北 ※7

→ セントヘレナ島へ ※8

※T. A. まとめスライドへ

最後のスライドはここまで!

↑ **ネルソン** イギリスの
ていとく
提督。ナポレオンの艦隊を
アブキール湾で破る。トラ
ファルガーの海戦ではイギ
リス艦隊の圧勝だったが、
自身はフランスの狙撃兵に
撃たれ船上で没した。



※1

クリック①: **トラファルガー海戦**
クリック②: **ネルソン提督**

⇒ **トラファルガー
の海戦** フランス
のイギリス侵攻は阻
止された。



※2

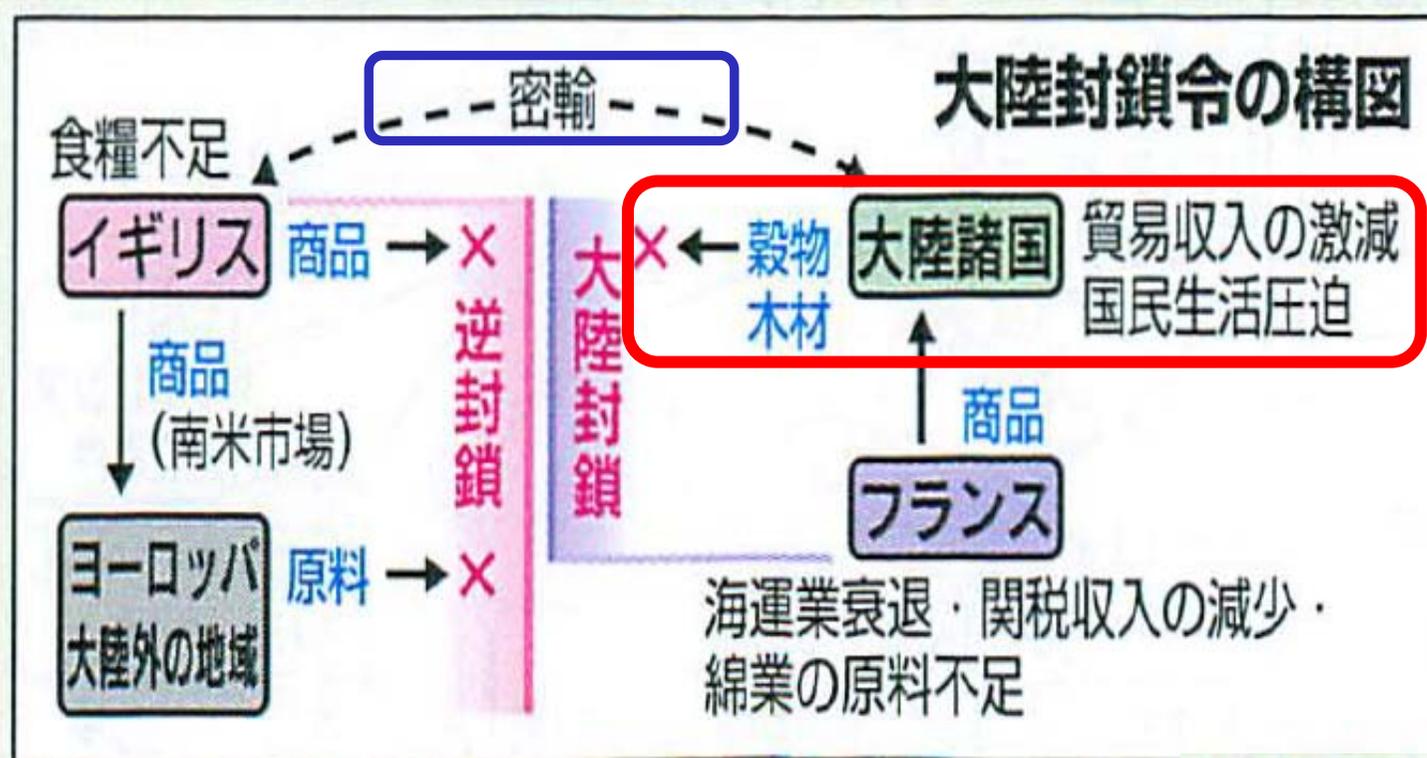
クリックで、兵士を激励する
アウステルリッツの
フランス皇帝ナポレオン

📍 アウステルリッツの三帝会戦 ナポレオンは戦闘の前夜、各部隊の野営を訪れ、兵士を激励して回った。



大陸封鎖令の構図

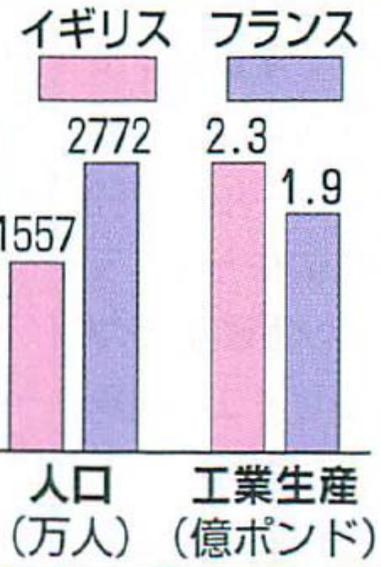
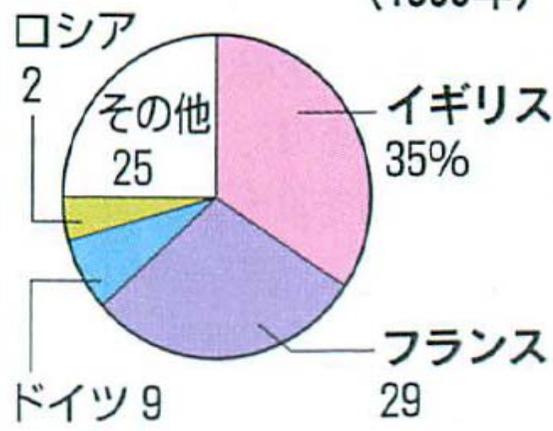
※3



クリック①:
ヨーロッパ
大陸諸国の
苦しみ

クリック②:
ひそかに密輸

世界の工業生産に占める割合 (1800年)



←解説 大陸封鎖は大陸諸国に深刻な打撃を与え、フランス本国も英海軍の逆封鎖で混乱した。ナポレオン支配に反発した大陸諸国は、密輸によって苦境の打開を図った。

※5

クリックで、
スペイン
民衆の
叫び

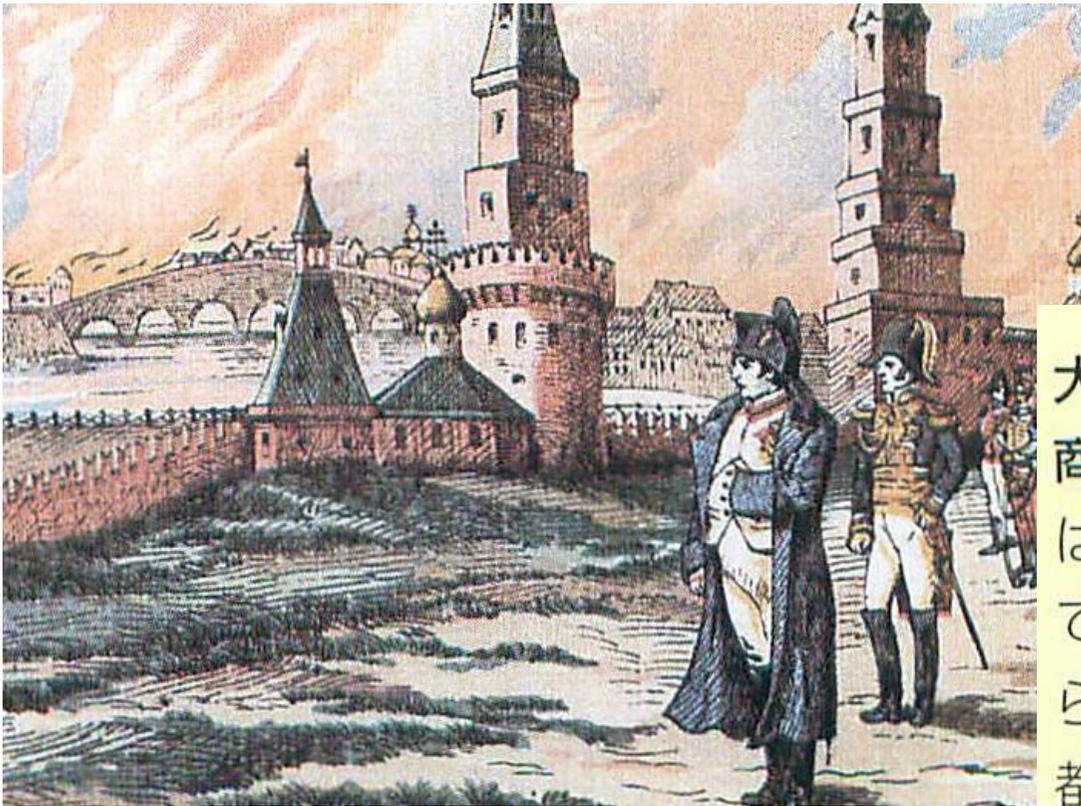
「自由！
平等！
博愛！」

(想像)



↑「1808年5月3日」ゴヤ ナポレオンの兄ジョゼフのスペイン王
即位に反対する民衆蜂起を，ナポレオン軍は苛酷に弾圧した。

1814年，縦266cm，横345cm プラド美術館(マドリード)蔵

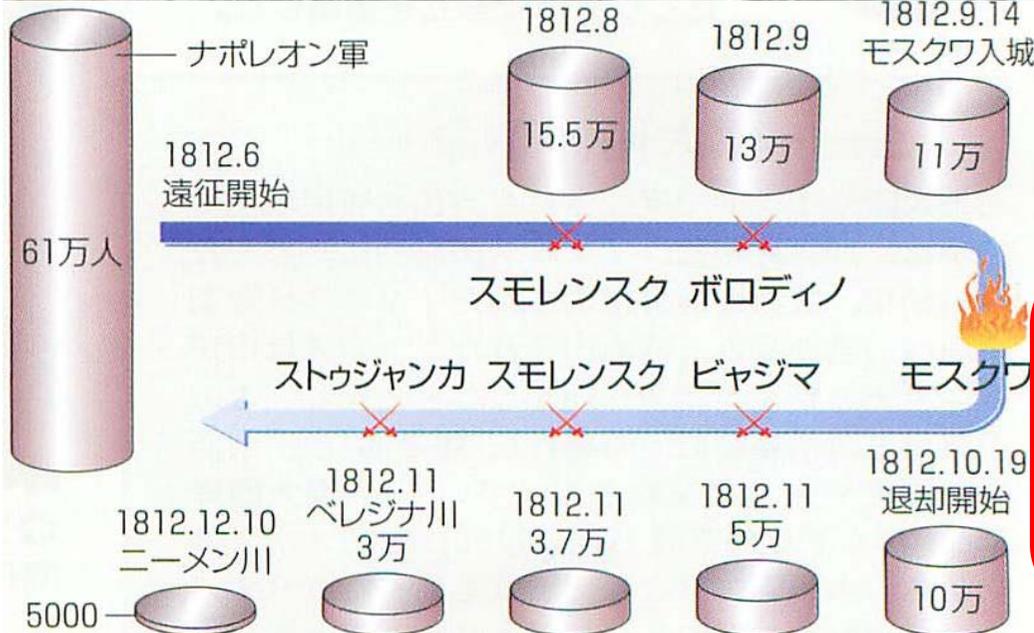


クリック①: **モスクワ大火**と**ナポレオン**
 クリック②: **「早すぎた冬」**の原因

※ **6①next**

大陸封鎖令を無視してイギリスと通商を行うロシアに対し、ナポレオンは1812年6月、61万人の大軍を率いて遠征を行った。ロシア軍は正面からの決戦を避け、退却しながら主要都市に放火した。モスクワに入城したナポレオン軍は、**焦土のモスクワ**でほとんど物資が得られないまま、退却せざるを得なかった。なお、

1812年は世界中で相次いだ火山の噴火によって気温が低下し、ナポレオン軍はこの「早すぎた冬の到来」に**大打撃**を受けた。



39 莊嚴序曲 1812年

(3分28秒)

※6②

back



この曲はチャイコフスキーがモスクワ音楽院長ニコライ＝ルビンシュテインに依頼されて1880年（または1881年）に作曲し、ナポレオン軍によって破壊されたモスクワの中央寺院が1882年8月20日（ロシア暦では8月8日）再建されたときの記念音楽としてその寺院の前の広場で初演された。この初演では本物の大砲が速射され軍楽隊のブラスバンドも参加し、クレムリンの鐘も打ち鳴らされて広場を埋め尽くした聴衆を興奮させたと伝えられている。内容は3部から構成されている。曲の最初では重厚なロシア聖歌（ラルゴ）がゆったりと演奏されて、平和に対する祈りが登場する。続いてテンポが速まってナポレオンの侵入に恐怖を感じるロシア市民の苦悩が表現され、第2部にはいると小太鼓のリズムにのってロシア国歌とフランス軍の侵入を象徴するラ＝マルセイエーズ（フランス国歌）が断片的に繰り返されながら聞こえ、モスクワ近郊における大決戦ボロディノの会戦につながる。この情景は攻撃的な印象を与えるラ＝マルセイエーズを使ったテンポの速い演奏と平和で牧歌的・大陸的なロシアを象徴する緩やかな旋律のロシア民謡などを対比させている。第3部では再びテンポが速くなってフランス軍とロシア軍の戦いが激化してゆく様子がラ＝マルセイエーズの繰り返しと大砲の音（シンバル）で表現され、再び平和で牧歌的なロシアが回復されたことを表現する。最後の場面ではラ＝マルセイエーズが次第に消えてゆく中、大砲の音が鳴り、ロシア国歌がそれを圧倒し、歓喜にあふれる中でこの曲は終了する。

※7

クリック①:

ワーテルローの戦い

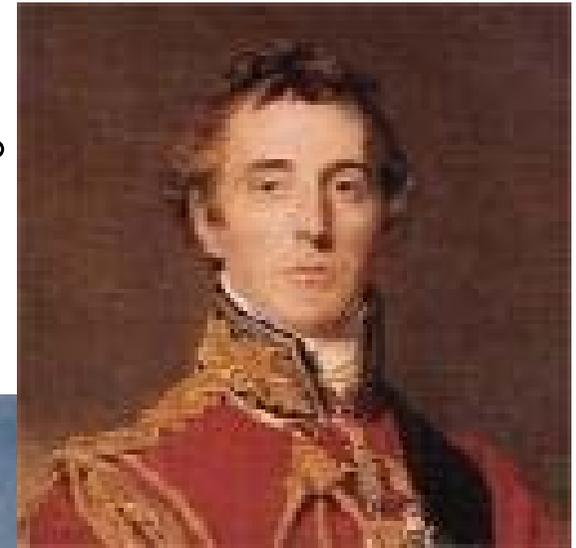
クリック②:

ウェリントン将軍

ウェリントン →

ナポレオンを破ったイギリスの将軍。

その名前は、今のニュージーランド
の首都名に！



← ワーテルローの
戦い (1815.6)

クリック①: **セントヘレナ島**の位置
クリック②: **ナポレオンの名言**その4



➡ **セントヘレナ島**

配流 (1815.10)

ワーテルローで敗れ、
皇帝復位も「百日天下」に終わる。セントヘレナでは回想録の口述を日課とした。



「私が目指した理想(ヨーロッパ統合)は、戦争以外の手段によって実現されなければならない」→約200年後のEU(ヨーロッパ連合)！

Lecture 授業No.101

T.Q.「各国の反仏ナショナリズムとはどのようなものか？」

ナポレオンの侵略に対し、各国の反仏ナショナリズムが高まった。スペインでの粘り強いゲリラ的反乱、プロイセンでの宰相シュタインとハルデンベルクによる近代化の成功、ロシアではモスクワを占領されたが焦土作戦などで仏軍を退却させた。ナポレオンを退位に追いやったのは、彼が種を播いたこのような各国の民族意識や国民意識であり、その結実が諸国民戦争（ライプツィヒ<ライプチヒ>の戦い）であるといえる。